

「共に創ること得られる学び」があった！

8月25、26日の2日間、防災班全体で防災ジュニアリーダーとしてイオンモール伊丹で、防災・減災イベントを行いました。楽しく学べる体験型ブースとして「命を守る防災フィッシング、防災〇×クイズ、防災の木」の3つの出し物を行いました。企画構想すること実に3か月。各班の班長、副班長を中心に、トラブルもありつつ助け合いながら実行に移すことができました。ここに一人では完結できない「共創する学び」がありました。当日は子どもに大盛況で、一緒に保護者の方も考えておられる様子が印象的でした。また〇×クイズの答えを説明したり、自分の言葉に言い換えたりすることで、生徒自身の学びもより深まっている様子が見られました。ここにも「他者と共創する学び」があったように思います。「災害」は誰に、いつ発生するのかわかりません。しかし、どこかで「たぶん大丈夫だ」と思ってしまいます。だから「色々な人が色々な場面で伝えること」が大切になるのだと思います。探究では「防災食」「避難所」「心の防災」の3班で課題に取り組んでいます。この夏は「共に創ること得られる学び」があった！今後もたくさんイベントがある。一緒に頑張りよう！



在宅班も26日に「ケアプランセンター なにわローランド」で介護体験に参加しました。介護現場を実際に見て、体験することで、新たな学びを得ることができました。介護体験では利用者の食事介助や車いすの操作、ホイスト浴などを体験し、働いている職員の方からお話を伺うことも出来ました。現場の職員の方の動き方や利用者さんとの関わりの中に働くことと他者に寄り添うことのヒントが隠れていたように思います。お話では介護士だけでなく、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医師が協力して「安心で安全な場所」を一緒に作っていると伺いました。「自分とは違う環境、立場の人を想像し、協力する姿」がありました。

自己責任論が強まっている今だからこそ、「他者に寄り添うとは何か」について考える価値があると思います。医療も介護も教育も一人ではできない。「暮らしやすい地域にするために高校生に何ができるのか？」を命題に在宅班も探究活動をしています。高校生が持つ無形の力を今後もぜひ発揮して下さい。在宅班の今後に期待！

